株式会社ハイパー 大阪支店
インサイドセールスマネージャー
平 潤偉 様

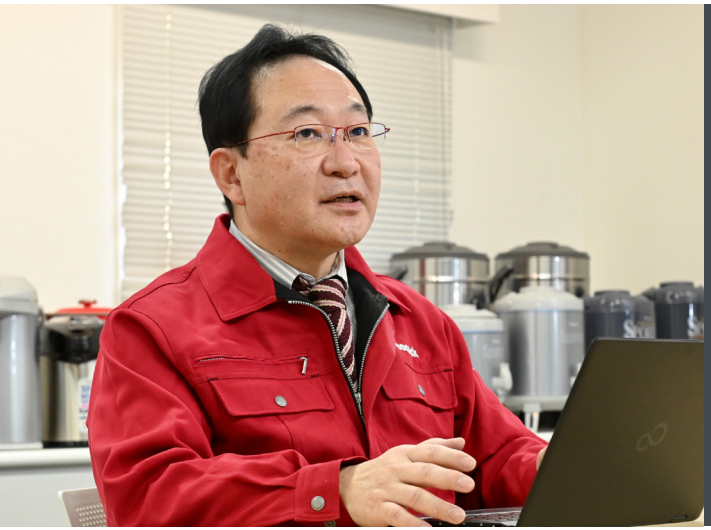
株式会社ハイパー 大阪支店
西日本統括部長
河野 拓也 様

ピーコック魔法瓶工業株式会社は、大阪府大阪市福島区に本社を置く魔法瓶などの製造メーカー。同社は国内だけではなく、海外に販売拠点があり、世界へと市場を拡大している。同社の経営管理本部では、増え続けるサイバー攻撃やランサムウェアなどの脅威を防ぐために、Sophos Intercept Xを導入した。

CUSTOMER-AT-A-GLANCE

ピーコック魔法瓶工業株式会社

創業	昭和25年9月1日
資本金	3,000万円
事業年度	自3月21日　至3月20日（年1回決算）
代表取締役社長	山中 千佳
所在地	【本社】〒553-0002 大阪市福島区鷺洲5丁目12番20号
事業内容	下記商品の製造・販売（日本全国並びに輸出） ガラス製魔法瓶、ステンレス製魔法瓶、電気ポット、電気ケトル、ステンレスボトル、ランチジャー、フードジャー、キーパー、電気調理器
ソフォスソリューションズ	Sophos Intercept X



ITパートナーからの信頼できる提案と海外での対応を評価して、Sophos Intercept Xに更新しました。

ピーコック魔法瓶工業株式会社
経営管理本部ITシステム
山蔦　聡太 氏

1950年に輸出用ガラス魔法瓶製造販売会社としてスタートし、1968年には業界初となる回転式ポットがヒット商品となり、現在も多数の電気ポット、電気調理器、ステンレスボトル・マグボトルなどの製品を販売しているピーコック魔法瓶工業株式会社。同社は、2012年には海外に販売会社を設立し、世界へとマーケットを広げている。同社の情報セキュリティを担当する経営管理本部ITシステム部門では、2005年から継続してビジネス向けのウイルス対策ソフトを導入してきた。しかし、増大するサイバー攻撃やランサムウェアなどへの対策と、海外展開を見据えたときに、旧世代のウイルス対策ソフトには多くの課題があり、次世代型のSophos Intercept Xへ更新した。

ビジネスチャレンジ

「旧世代のウイルス対策ソフトが抱えていた限界」

ピーコック魔法瓶工業株式会社の経営管理本部ITシステムで情報セキュリティ対策に取り組んできた山蔦聡太氏は、これまでの経緯について次のように切り出す。

「当社では、2005年あたりからビジネス向けのウイルス対策ソフトを導入していました。当時はPCを社内で利用するのが当たり前でした。そのため、旧世代のウイルス対策ソフトでは、社内で運用しているサーバーに最新の定義ファイルを保存していました。そして、社員がイントラネット経由でPCを接続すると、ウイルス対策の情報が更新される仕組みになっていました。当社の海外展開の歴史は、2001年にステンレスボトルの生産拠点を海外の協力工場に移管したのがきっかけです。当初は、CADの紙図面やワープロをもって海外出張していました。2005年ごろになると、パソコンを携帯して海外の協力工場に出張する動きが活発になりました。そし

て、2012年に海外の販売会社を設立すると、高性能なパソコンを携帯して、海外の協力工場に出張する頻度も増え、そのパソコンには、ウイルスソフトがインストールされているにも関わらず、感染する事象が起こっていました。もはや、社内のネットワークでしか定義ファイルを更新できない旧型のウイルス対策ソフトでは、防ぎきれないという限界を感じるようになりました。ただ、費用面もあり旧型のウイルスソフトで運用していました。その当時から、海外で事業を展開している同業者や関連企業から、ウイルスやマルウェアなどの感染リスクが増大しているという話を聞いていたので、何らかの対策が必要だと感じていました。」

旧世代の情報セキュリティ対策には、さらに運用面やコスト面での課題もあった。その点について、山蔦氏は「パターンファイルを保存するサーバーの運用管理も問題でした。Windowsで稼働しているサーバーにトラブルがあると、その対応に追われました。また、ウイルス対策ソフトがアップデートされるたびに、Windows OSの更新なども必要になることがあり、コストも運用負荷も増加していました。それに加えて、旧世代の情報セキュリティ対策では、EMOTETなどの脅威に対抗できるのか、ランサムウェア対策は十分なのか、という不安もありました。そこで、以前から当社にPCなどを導入しているITパートナーに相談することにしました」と話す。

テクノロジーソリューション

「次世代型セキュリティ対策が数々の課題をクリア」

山蔦氏が相談を持ち掛けたITパートナーの株式会社ハイパー大阪支店は、情報機器の販売やITインフラ構築、デジタルコンテンツの制作などを行う会社で、関西圏を中心に数多くのSophos製品を販売してきた実績がある。同社でピーコック魔法瓶工業株式会社をサポートしてきた平氏は、Sophos Intercept Xを提案した背景を次のように説明する。

「まず、定義ファイルによるウイルス対策だけでは、新しいマルウェアに瞬時に対応することは難しいと説明しました。現在は、一日に40万個以上の新しいマルウェアが作られているので、旧世代のウイルス対策では追いつきません。それに対して、次世代型の機能も多く含むSophos Intercept Xであれば、未知の新種のマルウェアに対応できます。また、クラウド型なので社内に戻ってイントラネットに接続することなく、世界中のどこにいてもインターネットが利用できれば、最新の状態に更新できます。そして、Sophosは海外でも利用できるので、山蔦様の不安を解消できるようになります。」

平氏からの提案を受けた山蔦氏は「Sophos Intercept Xに注目したのは、クラウド型でサーバーの運用が不要になる点でした。また、Windows PCだけではなく、Mac OSにも対応しているので、これまで別々に運用していたウイルス対策ソフトを統合できることも魅力でした。さらに、コストも下がるだけではなく、ビジネス用のライセンスを契約するだけで、社員が自宅で利用する個人のPCやスマートフォンにも無償でSophos Intercept Xと同等の個人向けソフトウェアをインストールできる点

も評価しました。セキュリティ対策も強化され、運用負担が軽減し、社員のデバイスも安全になるので、当部門としても会社に更新を提案しやすくなりました」と語る。

導入の成果

「安全性の向上と運用負荷の低減にコストの削減も実現」

ITパートナーの提案から約1カ月の検討を経て、Sophos Intercept Xの導入がスタートした。山蔦氏は「日本国内でも、大手企業がランサムウェアの被害に遭う事件が増えていたので、提案を受けてから一刻も早くSophos Intercept Xに切り替えたかったです。そこで、旧ウイルス対策ソフトをアンインストールして、Sophos Intercept Xをインストールする方法を解説したマニュアルを作成しました。業務によっては、すぐに更新できない事情もあり、社員各自の判断で対応できるようにしました」と話し「以前のウイルス対策ソフトでは、業務で利用するアプリケーションを無意味にロックしたりと、問題も多かったのですが、Sophos Intercept Xに切り替えたPCでは、そうした不具合もなく、安定しています」と評価する。

Sophos Intercept Xへの切り替えをサポートしてきた平氏も「Sophos製品のセキュリティ対策は、シンプルであるけれども、完璧である。と思います。お客様に提案できてよかったと思います」と補足する。

Copyright 2019 Sophos Ltd. All rights reserved.
Registered in England and Wales No. 2096520, The Pentagon, Abingdon Science Park, Abingdon, OX14 3YP, UK
Sophos is a registered trademark of Sophos Ltd. All other product and company names mentioned are trademarks or registered trademarks of their respective owners.

SOPHOS